



千津島実行委員会の皆様と



南足柄市・あしがら花紀行千津島実行委員会
と意見交換を行う農村景観応援団 田口団員
【多摩美術大学 教授】

農村景観 応援団 田口団員 と語る

景観を形成する取組

田口団員

これまで先人の方から受け継がれてきたこの景観づくりの取組みは、次世代につなげることが大変重要かと思われました。
現地を見せていただいて、本日は、花が咲いていない季節ということ、大変残念でしたが、花が咲いて満開となったときに、周りの景観との関係はいかがでしょうか。

地元

周りの景観との関係では、特に阻害されてるものはないかと思えます。
花が満開時の農道は、トンネルの中を歩いているような感じになり、特に九月から十月にかけては背の高い酔芙蓉が満開になります。
花や景色を楽しんでいる人たちをみると、花の農道を外れて、田んぼからの農道の写真を撮ったり、外周の山をバックに撮ったりと周りの景色と併せて楽しんでいただいているようです。
また、稲穂の頃には稲穂のバックに彼岸花を楽しむような方もいらっしゃいます。
弁当を持って、水路や土手に腰掛けて、楽しむ方もいらっしゃいますし、森林セラピーにかかわる田園セラピーといった趣です。

田口団員

訪れた方々の楽しみ方をみると、やはり周辺景観との関係は重要なのでしょうね。
これまで、農村景観は保全型が多く、形成というものが少なかった気がします。景観には、形成、再生、保全がありますが、まさにこの地域では形成という面が実践されています。
従来からの周辺景観と新しい景観づくりの関係のなかで苦労されたことがあるのでは。

地元

当初、組合長は、この取組みを実践するに当たり、環境と景観を子孫にどのように伝えて行くかが大きな目標と考えられました。計画時点から環境と景観を意識してきました。そして、押しつけではなく、組合員百数名が一人一人自分の取組みとして消化するまでじっくり時間をかけてこられました。
まさに地域づくりは人づくりと言えます。
それから、事業により出てきた石を利用して、公園もつくりました。水路にも利用しています。全くの異質のものを持ってこないことが大切なことだと言うことで取り組んできました。

田口団員

昔は、建物も地元の土、木を使ってつくられてきました。景観が美しいというのは、そういったところにも理由があるのだと思います。
今後は、新しい人工物が建てられる時、また、公共的な施設が必要になった時には、十分に周辺景観の形成に配慮し、景観に配慮した色、素材を考えていくことは重要ですね。



千津島実行委員会の皆様と、ふくざわ公園にて、お話しいただきました

地元

リピーターが何故来るのかということを考えたときに、ここに来れば癒されるから来られるということでした。突拍子もない景観であるからということでもなく、特にすばらしいということでもなく、そこにいると安心出来てほっとするということでした。生活の匂いがして何となく安心する。農道も舗装せず、砂利道になっています。土を歩くのは良いことだと思っています。

田口団員

そこに行けば癒される「ほっとする。」「穏やかになる。」といった部分ですね。

農村景観の良さは季節感

田口団員

農村景観の原風景は、昭和三十年代ぐらいまでと思っているのですが、その頃の農家には、庭先に花が植えられていました。各家々の花を楽しみながら歩くことが出来ました。

あの美しさは農村独特のもですね。

以前、農村景観の色を調査したことがあります。その時、農村景観は単調で寂しいように思われるので、アクセントになる色が欲しいと言われたことがあります。

農村に活き活きとした景観をつくるのに草花や花木の色彩は非常に効果的だと思います。

例えば、扇状地等のあぜ道に彼岸花によって田畑の形に赤いアウトラインが描かれる様子は、造形的に大変美しいものとなっています。

景観は時間をかけて育ててゆくものですが、色彩景観の形成に「花の色」「果物の色」等の色彩を、背景となる自然景観、二次自然景観の緑色に対するアクセントカラーとして使うことは無理がなく、都会の人々には魅力的です。



あしがら花紀行ネットワークの取り組みの一つザルギクを背景に

景観は必ずしも形態や色彩が融合された穏やかな美しさだけではなく、アクセント(対比的)が必要であると考えています。

農村景観の良さは近年の都市景観では得にくくなった季節感です。その地域性を感じさせて華やかに咲く花や、実った果物等がつくり出す季節感、農村景観の大きな特質であり、人々の原風景と位置づけられる懐かしい色彩を伴っています。

我が国のように四季の変化を持つ国では、一年という時間の経過を色彩で表すことに取り組むことは大変面白いと思います。

今は、木々の葉が落ちて、農村景観全体が赤味を帯び、さらに柿のオレンジ色が点在して秋らしい色彩景観が本場にきれいですね。千津島の取り組みはこれからも楽しみです。

色彩を使って農村景観に活気をもたらすことを目指して、地域の女性や若い力を借りて次ぎの世代へ繋げながら独自の景観を作り上げてください。

●地元住民のコメント

花で彩られた郷土を次世代に引き継がせようという想いとその実践が、新たな農村景観の創出に繋がることを、今回の景観応援団の現地調査の意見交換で再認識しました。

今後は、景観応援団からのアドバイスも参考に、魅力ある郷土づくりを目指したいと思います。

●農村景観応援団 田口団員のコメント

昭和30年代の数年、東北地方で育った私は、田畑の中に点在する集落の中を歩くのが楽しみでした。春、農家の庭先の梅や桜、夏のダリアやカンナ、ひまわりの赤・黄の華やかな色彩、秋、美味しそうな果物の色そして暗い色彩を覆う圧倒的な白い雪。農村景観は都市の景観より変化に富み、色彩豊かだったと記憶しています。

今回千津島地区の取り組みを見せていただきましたが、ザルギクのこんもりしたユーモラスとも言える花の形を楽しみ、鮮やかな柿の色に感嘆しながら、四季の花を絶やさず育てるご苦労を思いました。人工物(建物等々)による景観形成と異なり、自然物である花を育てることによる景観形成には日々の作業が欠かせず、従って取り組みに参加される人もまた育ててゆかなければならない難しさ、仕組みづくりを聞かせていただきました。次には酔芙蓉の満開の季節に是非訪れたいと思いつつ帰路につきました。